

第10回 あの森を訪ねて

相模原台地の雑木林「木もれびの森」



はじめに

第10回「あの森を訪ねて」は、相模原台地に広がる美林50選地の「木もれびの森」と周辺の施設や県立公園などを組み合わせた。

最先端の宇宙科学や原風景の林、そして壮大な外国風公園と変化にとんだ面白いコースとなった。

コースは、横浜線「淵野辺駅」～鹿沼公園～JAXA相模原キャンパス～相模原市立博物館～木もれびの森～横浜水道沈殿池～県立相模原公園～相模線「原当麻駅」で約9km。施設等の見学や昼の弁当時間を入れても6時間ほど見込めばゆったりした行程となる。

相模原台地

相模原台地は、相模川と境川に挟まれた洪積台地で砂礫層とローム層からなる。城山から藤沢、茅ヶ崎まで続く長さ約30km、幅約7.5kmの長方形で、相模原市域は河岸段丘が発達し3段に分かれている。上位の相模原面と中位の田名原面との間の20～30mの段丘崖にはシラカシやイヌシデ等の樹木地があり、相模横山と呼ばれている。横に長い山ということで名付けられたのだろうか。

筋状に延びる緑の景観は、まさに言い得て妙である。

今回訪れる「木もれびの森」は相模原市内にあり、段丘最上面に広がる2次林の、いわゆる雑木林。

ダイダラボッチ伝説

淵野辺駅を出ると少し先に、伝説の巨人ダイダラボッチ(ここではデイラボッチとっている)が、地団太を踏んだ跡という言い伝えがある池がある。池を中心に鹿沼公園として整備されている。

近傍にも同様の伝説が残っている沼や窪地があるとのこと。埋め立てなどにより消滅してしまう個所が多い中で、この池は貴重な存在であると解説版は伝えている。

巨人伝説は東日本に広く分布している(広辞苑)とのことだが、県内ではほかにもあるのだろうか。



JAXA相模原キャンパスと市立博物館

次は、日本の宇宙科学研究の中心的な施設となっているJAXA相模原キャンパスに寄ってみよう。

宇宙からの奇跡的ともいえる地球帰還が擬人化され、日本中を感動させた小惑星探査機「はやぶさ」の展示をはじめ、宇宙ロケットの原寸模型展示などがありおもしろい。宇宙関連グッズを売る店や食

堂もある。原則年中無休。

そして、すぐ向かいには相模原市立博物館があり、プラネタリウムを供えた施設で、地域の自然と文化のほか、宇宙関連の展示もある。両施設とも見学無料。



なお、この一帯、平地林の残る66haの広大な区域は、戦前には陸軍機甲整備学校があり、戦後はキャンプ淵野辺として米軍に接收され1974年に返還された所。

相模原の軍施設

接收地の件が気になり、ちょっと調べてみた。相模原台地は東京にも近く、平坦な土地で居住人口も少ない等の理由から、昭和12年(1937)に陸軍士官学校が市ヶ谷から移転してきたのを最初として、小田急線の北側には10を超える陸軍関係の軍事施設や民間の軍需産業が進出してきた。戦後はその一部が米軍に接收され、後に返還された所は、学校等の公共施設や公園、住宅等が造られている。

木もれびの森

「木もれびの道」と名づけられた緑道を右手に広がるゴルフ場の芝生を樹林の間に見ながら、途中のベンチで休み休み行くと、左手に

「木もれびの森」が見えてくる。コナラやクヌギ、イヌシデ、エノキ、ミズキ等を主林木とした林。

下草刈り等が行われている区域では、中間木や低木が少なく明るく開放的で、木々の姿かたちを際立たせ、雑木林独特の美しい景観をつくっている。

春草の名画「落葉」は、このような林の秋の風情に感動して描かれたのではないだろうか。

散策路を更に奥にたどり、中央園地の方まで踏み入ると相模原台地のかつての風景はかくやという林相の森林をみることができる。



北里ケヤキ通りに入る。道筋には高校や大学、附属病院などがあり、敷地の一面には松や杉等の樹林地も残されており、施設ができる前の林の面影をしのばせる。

横浜水道沈殿池

台地の平坦な道が下りはじめた先に面積10ha余のフェンスに囲まれた巨大な池がある。

横浜水道の沈殿池である。谷の凹地を堰き止めて造ってある。

横浜水道は我が国における近代水道のさきがけとなった。開港後の人口増加が著しい横浜にきれいな水を供給するため、明治18年に工事に着手し、津久井の三井か

ら山を穿ち、野を超え、谷を渡り野毛山までの44kmをわずか2年半で完成させたことに、素直に感嘆する。なお、この沈殿池は戦後の昭和27年に完成したもので当時のものではない。池の岸边に近づくことできない。フェンス越しに見るだけ。



県立相模原公園と市立麻溝公園

沈殿池のすぐそばにあるこの公園も接収返還地に造られた。見所は昭和46年まで米軍や自衛隊の小銃射撃練習場として使われていた長さ350m、幅60mの凹地を利用した庭園。両側に夫々40本程のメタセコイアの巨木が並木を造り、その間に噴水や花壇のあるフランス式庭園となっている。なんだか異国にいるような気分にさせてくれる。大温室見学やグリーンタワーという展望台からの眺望もお勧め。



森の生態と森の力をそのまま生かすために人工物を極力おさえ、自然に包まれ・溶け込む利用を期待する「木もれびの森」と、計算し尽くした設計とたえず人手を加えながら快適な空間と情景等を醸

しだそうとする庭園を見た。

森林を訪ねてという主題からすると、自然のままがベストといたいところだが、長い歴史の中で人をなごませる工夫を積み上げてきた人工的な庭も、ともに素晴らしい。どちらも人を落ち着かせ、穏やかにする。

相模横山の段丘崖を下る道を歩き、台地から浸み出す水の流れる道保川、姥川、そして鳩川を渡ると相模線「原当麻駅」はすぐそこ。

追加

まだ、時間と体力のある方は、もう少し相模川に向かって道を下り当麻地区まで行ってみよう。

当麻を「たいま」とすぐ読める人はそうはいないだろう。漢字検定の難問に違いない。

それはともあれ、ここ当麻は、時宗の開祖一遍上人が修行のために庵を結び、弟子により無量光寺が開かれた所。寺は明治の火災で大半の建物が消失し、今も仮本堂となっているが、寺域は広く、大きな樹木がその歴史をしのばせる。



寺から相模川にかけての当麻の集落は、後北条時代には小田原と八王子方面を結ぶ交通の要衝地として関が設けられ、宿場や市、相模川の渡し場として栄えた地区である。今は、その名残を地名に残すだけの静かな集落。

ここまで来ると、相模川の土手道を川に沿って下り、相模線「下溝駅」を目指すのが良い。

(2015, 9 瀧澤)